

令和7年12月 日

東員町議会

議長 南部 豊 様

教育民生常任委員会 委員長 片松 雅弘

研修報告書

研修期間	<u>令和7年10月7日（火）～10月8日（水）</u>
研修（視察）先	岡山県美咲町役場・兵庫県加古川市
目的（テーマ等）	地域づくりについて・ごみ減量に向けた取り組みについて
参加議員名 （複数の場合）	片松雅弘・三林 浩・山崎まゆみ・大谷勝治・広田久男・大崎昭一
資料添付の有無	有 ・ ④無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

10 月 7 日 岡山県美咲町役場

テーマ「地域づくりについて」

あえて「人口減少を受け入れるまちづくり」を掲げた自治体でした。

人口約 1 万 3000 人の岡山県美咲町は、この 10 年で人口が 2500 人ほど減少して「消滅可能性都市」と指摘された自治体の 1 つです。

中山間地にあって人口減少や高齢化が 50%を超える町で、暮らしを持続可能にするために取り入れられた「賢く収縮するまちづくり」を推進されてきました。

また、課題や希望を把握する方法もユニークで、若い世代の意見も視野に入れ、世帯主だけでなく、中学生以上の全員にアンケート調査を行い、地域の課題を把握していました。

例えば「道路・河川・地域の美化・高齢者の見守り・子育て環境」といった項目を、満足度や重要性について 5 段階で回答してもらう調査を行い、今後の活動内容に優先順位をつける。

地域ごとに課題は異なり、一律にアンケート調査を実施しても無駄が生まれる。

美咲町の公共施設の半数以上は築 30 年以上経過し、老朽化によって維持費もかさんでいました。

何かを始めるには、何かを削る覚悟が必要と話し、図書館や公民館、保健センターなどは、それぞれの機能を併せ持つ施設にして効率化を図っていました。

また、赤字の続く温泉施設を閉鎖し、児童生徒の少なくなっていた小中学校を統合して「小中一貫校」を導入していました。

美咲町では、これらの取り組みによって、今後 40 年間で公共施設にかかる予算を約 46%削減するとしています。

町民からの反発も多く、褒めてくださる方はほとんどいません。公共施設には長年親しんでいますから「総論賛成・各論反対」の状態で、住民説明会では 4 時間から 5 時間、批判にさらされたこともあると話されました。

また、青野町長の言葉で「1 人の 1000 歩よりも 1000 人の 1 歩と話された言葉は、意味が深く、自ら行動をしていく姿勢は職員だけに押し付けるのではなく、町長自ら現地に出向き、一緒に取り組む姿勢は見習うべきだと強く感じ、感動しました。

合言葉は「賑やかな過疎」と話され、楽しみながら活動することにこだわっていました。

東員町でも高齢化や担い手不足から、自治会の在り方や今後の存続に、各自治会が悩まれている現状で、第一中学校建設にあたり莫大な費用が掛かっているため、今後、財政が厳しくなることは目に見えていますし、老朽化する公共施設の課題など問題は山積みです。

高齢化しても人口が減っても町の面積は変わらない。

必要なものは充実させつつ、町を人の在り方に合わせ縮小していくなど、ハコモノ推奨から決別し、人口減少や高齢化を正面から受け止め、町を作り替えていく時期に来ていると感じました。

「公共施設等総合管理計画」や「公共施設カルテ」などを活用して、今後、廃止・解

体・売却等を踏まえた施策を共に考え、行政への提案をしていかななくてはならないと強く思います。

10月8日 兵庫県加古川市 ごみ減量に向けた取り組みについて

どこの市町村でも取り組んでいかななくてはならない「ごみの減量化」という課題について、加古川市の取り組みを学んできました。

加古川市の凄い取り組みは、各地区で集めたごみをブルーシートの上に広げ、手作業で分別し「ごみ質組成調査」を行い、どんなごみがあるのか徹底的に調べるという事です。

それにより、何があり何を減らすことができるのかが一目瞭然になります。

各自治体は減らすことを目標にはしていますが、行政が徹底的に手作業で分別し、現状を把握することまで取り組む姿勢には感銘を受けました。

加古川市の施策のうち、「剪定枝の資源化」「粗大ごみの個別有料収集」「事業系ごみの搬入検査」の減量効果が大きかったとの説明を受けました

また、平成27年にごみ減量についてのアイデアを募集し「冷蔵庫の中身チェック表」が選ばれ、ユニークな啓発活動もされています。

「剪定枝」は委託先で、チップやエタノール、肥料に再利用。

「粗大ごみ収集」は、市民からの事前に電話、またはインターネットやFAXでの収集申し込み後に、コンビニ等で処理券を購入します。

指定日に家庭まで担当班が出向き、収集運搬を行い、処理施設で処分又はリサイクルします。

東員町でも粗大ごみの搬出が困難な高齢者世帯など、粗大ごみを指定場所まで運ぶ負担が軽減できることは、東員町でも必要となっていると思います。

また「小学校4年生夏休みごみ減量チャレンジ」では、環境学習を始める小学4年生を対象に、夏休みの間に家庭のごみ出しを手伝いながら、分別を？掲載した「雑がみ保管袋」を配布しています。

「でまえどり運動」や「おいしい食べきり運動」といったネーミングで親しみやすく参加を促すうえで効果的だと思います。

また、リユース意識の向上と、ごみ減量につなげるため「(株)ジモティ」やネット型リユースプラットフォーム「おいくら」と連携協定し、必要とされるリユースも促進しています。

行政だけの考えだけではなく、住民を巻き込んで「子どもから年配の方まで」楽しく参加できるアイデアや意見を募り、進めている点は、ぜひ担当課と意見交換を行い、本町として実施できることがあれば求めていきたいと思っています。

